天文科学館 News（ニュース） 2023年 1 月

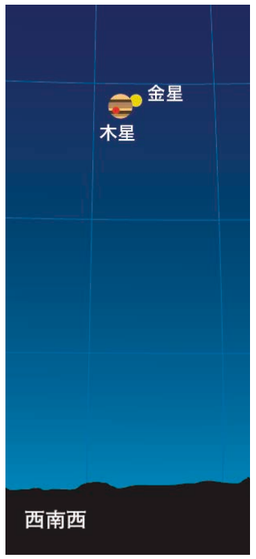
★1月の休館日：4日(水)、10日(火)～16日(月)、23日(月)、30日(月)

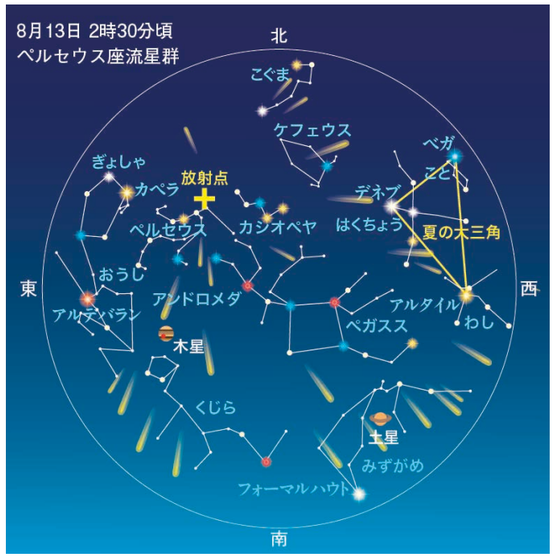
プラネタリウム番組のご案内

1月の一般投影　2023年の天文現象

夜空を見上げると、季節ごとに、いろいろな星座を楽しむことができます。また、月や惑星は、季節と関係なく、それぞれの周期で星座の中をめぐります。その時々で、星座を形づくる星々と月や惑星、あるいは惑星どうしの共演を楽しむことができます。2023年には、どんな星空が見られるのでしょうか。

3月2日には、宵の西空で金星と木星が並びます。金星は、太陽と月を除くと1番明るく見える天体です。そして2番手が木星です。明るい2つの惑星の接近はかなりの見ごたえになるでしょう。金星は、3月24日には細い三日月と並び(沖縄や南西諸島では金星食となる)、4月11日にはおうし座のプレアデス星団(すばる)と並びます。





流星群も注目です。2023年は、8月13日に極大日となるペルセウス座流星群と、12月15日が極大日となるふたご座流星群が、月明かりの影響も少なく好条件となっています。その他にも、さそり座の1等星アンタレスが月に隠されるアンタレス食(9月21日)や、月の一部が地球の影に入る部分月食(10月29日)など、注目の天文現象が目白押しです。また、海外に目を向けると、4月20日には南インド洋、北オセアニア、太平洋で金環皆既日食が、10月15日には北米、中央アメリカ、南米北部で金環日食が見られます。今月は、2023年の天文現象についてお話しします。

3月2日　金星・木星の接近（左）と
8月13日　ペルセウス座流星群（右）
© 天体観測手帳

キッズプラネタリウム

★幼児や小学校低学年を対象とした子ども向けプラネタリウムです。
土日祝および冬休み(～1/9)の11:10～/14:30～

きらきらふゆのダイヤモンド

☆～1/5(木)～2/26(日)☆

冬は、4つの季節の中で、1等星がいちばんたくさん見える季節です。
明るい星をつなぐと、夜空に大きなダイヤモンドが見つかります。みんなで探してみましょう！

軌道星隊シゴセンジャー(冬場所)

☆1/7(土)～1/9(月・祝)☆ 11：10～　※事前申込制

こども天文教室

★小学4年生以上を対象に、テーマごとの天文の話題を少し詳しく解説するプラネタリウムです。どなたでもご参加いただけます。

☆1/28(土)☆ 9:50～　テーマ：星雲と星団

2月の一般投影　宇宙のタイムカプセル・隕石

宇宙からやってくる隕石は、私たちがまだ知らない宇宙のことを知るための貴重な資料です。その隕石の特徴やふるさとについて紹介します。

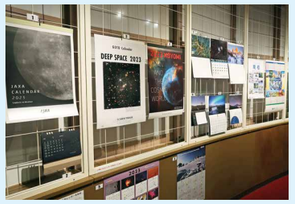
神戸隕石

特別展のご案内

～1/29(日)

2023年全国カレンダー展

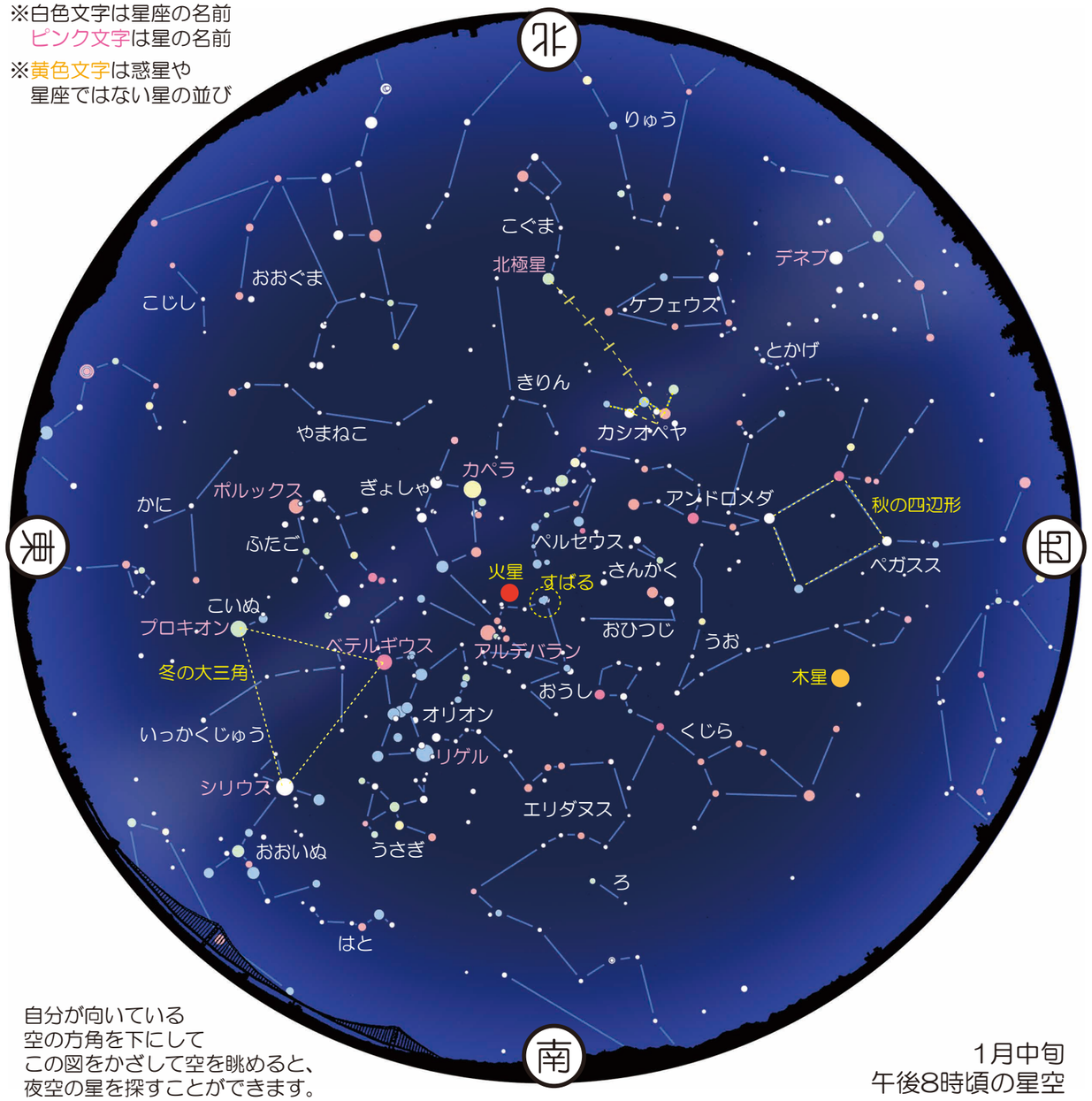
企業や公共機関、動物園などが発行する新年カレンダーを展示しています。また、2023年は明治の改暦から150周年です。カレンダーと併せて日本の暦の歴史について紹介しています。



時と宇宙の博物館
明石市立天文科学館

2023年1月の星空

※白色文字は星座の名前
ピンク文字は星の名前
※黄色文字は惑星や星座ではない星の並び



自分が向いている
空の方角を下にして
この図をかざして空を眺めると、
夜空の星を探すことができます。

1月中旬
午後8時頃の星空

南東の空に、砂時計のような形の星の並びをしたオリオン座が見えています。オリオン座の三ツ星を繋いだ線を空の低い方へ伸ばすと、おおいぬ座の1等星シリウスが見つかります。三ツ星を繋いだ線をシリウスとは反対方向へ伸ばすと、おうし座の1等星アルデバラン、さらにその先に「すばる(プレアデス星団)」が見つかります。また、赤っぽく輝くアルデバランの近くに、同じく赤く輝く火星が見えています。

日没後、南西の空に木星、西の空に宵の明星・金星が輝いています。

1月の月の暦

7日 望（満月）
15日 下弦
22日 朔（新月）
29日 上弦

1月の日の出・入(明石)

	日の出	日の入
1日	7：07	17：00
15日	7：07	17：12
30日	7：00	17：27

1月の天文現象

1日 元日(明石の初日の出は7:07)
3日 月と火星が並ぶ
4日 しぶんぎ座流星群が極大
6日 小寒
20日 大寒
23日 月と金星・土星が並ぶ
26日 月と木星が並ぶ
30日 水星が西方最大離角
31日 月と火星が並ぶ

2月の天文現象

4日 立春
17日 土星が合
19日 雨水
22日 月と金星が並ぶ
23日 月と木星が並ぶ
28日 月と火星が並ぶ